

公益信託あだちまちづくりトラスト

このゆび とまれ



2015.1
No.24

<http://adachi-trust.jp>

メビウスの輪のように人とまちを結びあう公益信託あだちまちづくりトラスト

第6回 平成26年度

公益信託あだちまちづくりトラスト

助成活動団体 成果報告会

第1部/平成24・25年度トラスト助成活動団体成果報告
第2部/パネルディスカッション(活動団体交流)

開催日時: 平成26年10月4日(土)午後1時30分~4時30分

開催場所: 東京電機大学東京千住キャンパス 100周年ホール

主催・発行: 公益信託あだちまちづくりトラスト



千住の鴉外碑
保存会



神明美化
グループ



あだち中学生
まちづくり
フォーラム
実行委員会



千住仲町
まちづくり
協議会



千住
ヤッチャイ大学
実行委員会



足立区の新しい
環境生活を
推進する会



合唱組曲
「五色桜」
制作委員会



千住いえまち
プロジェクト

p.12	p.11	p.09	p.08	p.07	p.06	p.05	p.04	p.03	p.02
平成26年度助成活動団体 助成申請から助成金交付まで	・総括……………中林一樹様	第二部 パネルディスカッション コーディネーター 運営委員 加藤仁美様	・セントエルモ綾瀬管理組合……………大内辰夫さん ・ライオンズシティ綾瀬管理組合……………中村祐之さん ・全体講評……………大熊喜昌様	・千住ヤツチャイ大学実行委員会……………伊原修太郎さん ・千住の鷗外碑保存会……………相川謹之助さん	・足立区の新しい環境生活を推進する会……………牛込源晃さん ・千住仲町まちづくり協議会……………渋谷良治さん	・あだち中学生まちづくりフォーラム 実行委員会……………米重哲彦さん ・千住いえまちプロジェクト……………山崎太育さん	第一部 助成活動団体成果報告 ・合唱組曲「五色桜」制作委員会……………田口芳子さん ・神明美化グループ……………遠田明子さん	挨拶 ・運営委員会 運営委員長……………大熊喜昌様 ・委託者代表 足立区都市建設部長……………岡野賢二様	あだちまちづくりトラスのしくみ



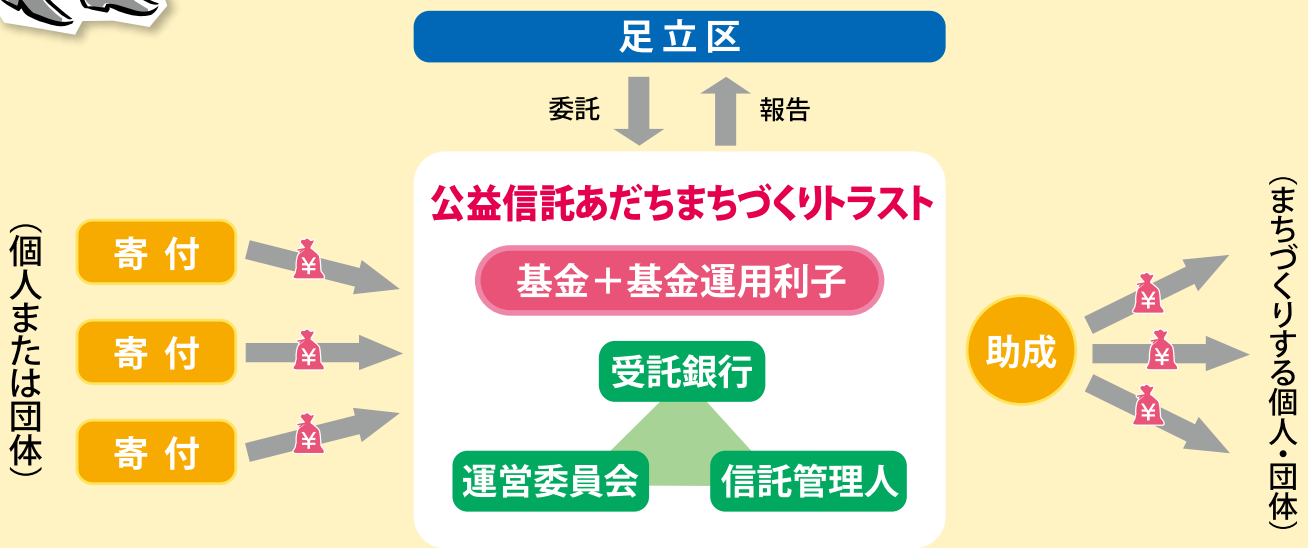
あだちまちづくりトラスト



「あだちまちづくりトラスト」は、自分たちのまちを、安全で安心して暮らせる快適なまちに変えていこうとする、自主的なまちづくり活動を応援します。個人や団体、事業者からの寄付金を信託銀行に預け、その運用利子等でまちづくり活動を助成しています。

この制度は、(財)まちづくり公社により昭和63年にスタートしました。現在は、足立区が三菱UFJ信託銀行に運営を委託しています。

詳しくは、公式ホームページ <http://adachi-trust.jp/> をご覧ください。



トラストでより一層 まちづくりを推進

公益信託あだちまちづくりトラストは、今年で設立26周年を迎えました。これまでに助成団体は150件を超え、助成総額は約2億5千万円にのぼります。

特に最近では運営方針に広く柔軟性をもたせたことにより、助成申請団体が増加し申請内容も多様化してまいりました。

近年、区のみまちづくりの予算も厳しさを増しております。自助、共助が求められております状況でのトラストの運営は、今後益々重要な役割を果たしていくと思われまます。成果報告会6回目の今回は10団体となりましたが、この機会を通じて、助成団体をはじめ、まちづくりに関わるすべての方たちが、より多くの幅広い情報と連携を共有することにより、足立区によりよいまちづくりが一層推進されていくことを期待しております。



運営委員長
大熊 喜昌 様

アイデアが活きる トラスト

現在、日本は人口減少社会や高齢化社会という問題に直面しています。足立区も例外ではありません。そうした状況のなか、区では福祉関係に予算を割かなければならないのももちろんですが、一方で問題解決のためにイメージアップを図り、将来的に若い人たちに来てもらい、永く住み続けてもらうための施策も進めています。調査によれば「区に愛着を持っている」「誇りをもっている」「他の人にも勧めたい」という人の割合は上がってきています。そこで先ほども触れましたとおり、人口減少社会、高齢化社会で扶助費に多くの予算がかかるなか、一歩先の活気あるまちづくりを見据えたあだちまちづくりトラストという制度を維持・継続してこられた私たちの先輩たちに感謝したいと思います。

私たち足立区が元気になるためには、行政だけではできません。やはり区民の方々にいろいろなアイデアを考えていただき、考えるだけでなく行動していただける方が一人でも多くなること、それが大切だと思います。行動するには費用がいる、そういうときにトラストという制度をうまくご活用していただきたいと思います。こんな風に使ってみたいと考えたときに、ではこんな



形で使えますよとご案内して、色々な活動が広がっていく、それが足立区が元気になることにつながるはずですよ。ぜひ、ここにいる方たちには、一人でも仲間を増やしていただき「こんなことをやりたい」「こんなことを考えているんだけど」とトラストへ相談をする方が、多くなればいいと思います。足立区が人口減少社会にあっても元気のあふれる光輝くまちとして、つねに成長していけるよう皆様にご協力をお願いしたいと思います。



足立区都市建設部長
岡野 賢二 様

区の誇り高き歴史の 「五色桜」を合唱組曲に

1912年に日本の桜を代表して足立の五色桜がアメリカに贈られ、既に100年以上も多くの人々の目を惹きつけています。私はこの誇り高き歴史を音楽で伝えたいと強く思いました。足立区の財産、ブランドになるもの、それこそがこの「五色桜」の歌ではないかと。この歌を口ずさむことで、すべての区民、特に若い人たちに誇りを感じてもらいたい、それが活動の趣旨です。作曲は童謡の「さっちゃん」や「犬のおまわりさん」でおなじみの中中先生にお願いしました。そして櫻木みつ子さん作詞により、全6曲からなる混声合唱組曲が誕生しました。26年3月8日には、公募による140名の区民の参加を得て初演コンサートを開



作曲家大中恩先生と
区合唱連盟副理事長
近藤直子さん



催。来年は桜の返礼にハナミズキをいただいてから100周年を迎えるにあたり、ワシントンの桜祭り、またニューヨークのカーネギーホールでこの「五色桜」を世界にも広く発信していきたいと思えます。区には合唱コンクールを20年以上主催してきた伝統があります。吹奏楽も東京のコンクールに毎年20校以上出場しています。今回、区内の全小中学校に楽譜とCDをお配りしましたが、音楽を愛する環境の中で、この「五色桜」を毎年美しく咲く桜のように「区の財産」として永く歌い継いでいきたいと思います。



発表者

田口 芳子 さん



【講評】

鴨下 稔 運営委員

足立区には区歌があり、区民の方々に親しまれています。ここで足立の歴史に根ざした「五色桜」という新たな歌が誕生したことは誇らしいことです。学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じて歌とこの活動を広く発信して欲しいと思います。

神明地区の綾瀬川高架 下をうるおい散策路に

神明地区は、四方を川に囲まれた自然豊かな地域で、私たちはこの優れた環境を守るため美化活動に取り組んできました。今回のトラスとは、現在あまり活用されていない綾瀬川の高架道路の高架下の管理用通路や駐車場を皆さんが楽しめる散策路等として整備することを目的としました。

まず広く地域の方、関係する町会などに参加を呼びかけ、綾瀬川の川歩きを実施し、現状を確認することからはじめ、7回の会合を重ねながら散策路づくりのアイデアを出し合いました。ことに会合を通じ、都や区との協働の重要性も実感しました。この過程のなかで①区民、とくに高齢者がここに来て身体を動かしたり、おしゃべりできるふれあいの場とすること②散歩の始めや



発表者

遠田 明子 さん

途中にちよつと体操できる遊具があるスペースをつくりたい③近くには中学校もあり、子どもたちが雨の日でも高架下で運動もできるようにしたい④月見橋のたもとに管理用通路の入り口広場として健康広場をつくり、ウォーキングなどのスタートとゴール時の休憩場所にしてはどうかなどの提案をまとめました。今後は豊かでうるおいのあるまちづくりの一環として、こうした提案を実現に向けて地域の方々と一緒に、さらなる活動に励みたいと思っています。



河川管理用通路等をふれあいの場としての整備



【講評】

岡野 賢二 運営委員

北綾瀬から神明に関しては今後、六町加平橋が車で双方で通行可能、北綾瀬駅の北側降り口の設置、地下鉄8号線の延伸などの可能性があり、人の動きが変わります。皆さんのご提案をしっかりと受けとめ、環境に配慮しながら議論を進めていきたいと考えています。

未来を担う中学生からのまちづくり提案

あだち中学生まちづくりフォーラムは、

足立区に暮らす中学生が身近なまちの現状と未来を考えることをテーマに、まちづくりの課題やあるべき将来像について研究・発表を行うことで区への愛着を育み、住みよいまちづくりの担い手を育むことを目的としています。なぜ中学生なのかというと、彼らの多くが将来、足立区を出て行きたいと考えており、逆に住みたいまちとはどのようなものかを探ることで、今後のまちづくりの指針になるのではと考えたからです。

研究は区内6ブロックから各1校ずつ、第四中学校、第十四中学校、江北中学校、竹の塚中学校、蒲原中学校、栗島中学校の6校



ポスターコンクールで優勝、入選した作品を使用したポスター、リーフレット



発表者

米重 哲彦 さん

が参加。それぞれテーマを設定し、実際にまちを歩き、討議を重ね、研究成果をまとめました。なかでも第四中学校は「区長になろう」をテーマに3年生が公民の授業に取り入れて参加。「シャッター商店街の活気を取り戻す、ふれあい商店街づくり」や廃校校舍を利用したコミュニティパークの建設、地区東西の活性化推進のため、西側に大型商業施設の建設など、まさに区の現状に即した提案がなされ、中学生の意識の高さと未来への志向性がうかがえました。2年後に、ぜひまた開催したいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。



【講評】

あかし 幸子 運営委員

中学生が地方自治に興味を持っていたかどうか、それ自体が大変素晴らしいことだと思います。見るべきところをしっかりと見ているなと感じました。中学生の新鮮で柔軟な発想のなかに、これからの足立区が見えてくるのかなと手応えを感じました。

千住の歴史的建物の記録化・情報発信・再活用

私たちは「これからの千住。わたしたち

ができること。のこすこと。つくること。つなぐこと」をキーワードに、宿場町として栄えてきた千住、趣のある千住をできるだけ多くの方と共有し、魅力的な千住を広く発信していきたいと考えています。活動の柱は次の3つ。①「調査・記録」歴史的建物に住むオーナーさんと情報交換をする際に必要な書籍や古写真などの資料を収集してデジタルデータ化。まち並み調査として、建物の実測調査、またはヒアリングを行い、CAD図面を起しミニアルバムを作成。オーナーさんに建物の魅力を伝え、また世代交代するご家族にもその魅力に理解を深めてもらうようにする②「情報発信・共有」それらの建物を



発表者

山崎 太育 さん

千住いえまちマップに掲載して年2回発行。実際に建物内部も見学できるまち歩きを実施、多くの方にその魅力に触れてもらう。またHPやSNSを使い情報をwebでも発信する③「建物活用の実践的検討」長延寺を会場にした「千住いえまちヨガ」の開催など、実際に建物を使ったイベント開催により、建物を活用すると同時に、家や街についての関心と理解を深めてもらいたいと考えています。最近では活動に世代を超えた手応えを感じており、将来的にはNPO化をめざし行動範囲を広げていくつもりです。



【講評】

中林 一樹 運営委員

千住の歴史・財産を残し、手を加え、それを核にして世代を超えた人々がひとつにつながる。これはまちづくりのひとつのモデルスタイルとなるはず。今後、人口減少社会、防災社会を生き抜くためにも、交流を大切に活動の継続を望みます。



千住いえまちマップ(上)と収集した資料(右)

足立区内の野草ポケットガイド作成で環境づくり

平成14年に「足立萌えぎの会」はトラストを利用して津村昭人先生編集により、足立区内の荒川河川敷に自生している野草204種を選び「荒川の野草」として小中学生向けに冊子をつくりました。この冊子はすぐに売り切れとなり、再発行へのご要望を多くいただきました。

そこで平成25年度にトラスト助成を受け、野草の種類も約400種と2倍に増やし、持ち運びに便利なポケットサイズ判の「足立区の野草 ポケットガイド」を新たに発行いたしました。発行部数1000冊のうち、区立中学校 図書館などに460冊を寄贈、一般市民への販売は460冊(350円)でしたが、新聞などで紹介されたこともあり、約1ヶ月で完売となりました。現在は版權を足立区に譲り、区のホームページに



足立区の野草 ポケットガイドと
舎人公園野草園での野草観察会



代表者
牛込 源晃 さん

PDFファイルで掲載されており、ご希望の方はこちらからダウンロードが出来ます。みどりの観察会などはもちろん、個人の庭で見つけた野草を、これはなんだろうと調べる際に役立つことと思います。

足立区には、区立公園や都立公園などが多く、そこを訪れ野草の観察をすることは心のうるおいになるのではと思います。また緑はCO2削減にも役立つことから、環境を守るまちづくりにつながると考えます。区民の皆さんが身近な自然に触れることで、緑への興味と関心を深めていただければ幸いです。



【講評】
田中 実 運営委員

わかりやすい編集と持ちやすいサイズで、大変使いやすい冊子だと思えます。まちづくりと野草を守ることは相反するのではという疑問がありました。緑ととも環境や人々の健康を守るまちづくりだと実感しました。今後ぜひ活動を続けてください。

歴史ある氷川神社「御仮屋」の記録継承

千住仲町の氷川神社は、来年400年祭が行われる長い歴史ある神社で、地域の憩いの場としても親しまれています。またお祭りの際、お神輿が一時留まる場所として臨時に組み立てられる御仮屋(オカリヤ)は、彫刻が施された歴史的価値の高い建造物です。しかし平成3年に補修をして以来、部材の消耗も進み、図面もなく組み立て方法を知らない人も多く限られてきました。

そこで御仮屋の構造や構築方法をきちんと図面化し、次世代に継承していくこと、またその取り組みを通じて地域の活性化につなげていこうと考えました。幸い東京電機大学建築学科の先生や学生さんの協力を得ることができ、部材の状況確認から計測・スケッチを行い、足りない部材があることや、



御仮屋と氷川神社



発表者
渋谷 良治 さん

支柱にひびが入って使えないものがあることなどがわかりました。ただ柱などは、取り替えると1本8万円くらいします。さらに屋根の修理なども部材は高価で、それでも歴史的建造物に現在の新材の使用はすぐわないため、多くの予算がかかります。活動が推進できたのはトラスト制度のおかげと感謝しております。氷川神社の境内では多くの町会行事が行われますが、皆さんに楽しんでいただながら、千住仲町の歴史に関心を持ち、先人のその心と技を継承してほしいと願っております。



【講評】
儘田 政弘 運営委員

御仮屋の構築の巧みさは、京都から宮大工が訪ねてきたという事実が証明していると思えます。この活動は地元NPO団体や大学とも協力して進められているとのこと。こうしたネットワークの強化により今後、震災時などの助け合いにつながるのではと思います。

「音う風屋(おとうふうや)」を拠点にまちを活性化

私たちは「音まち 千住の縁」のボランティアサポーターから派生したプロジェクトチームで、「音う風屋(おとうふうや)」を活動拠点に、イベントやワークショップを通じて地域の方々と交流をはかり、新たな人の流れやつながりのなかで、まちを活性化させることをテーマに活動しています。

メンバーはそれぞれ特技があり、それを町の人と共有することをめざしています。たとえば小日山君は楽器をつくるのが得意で、紙で小鼓のような楽器をつくりました。この楽器を使い、芸大邦楽部博士課程の学生とともに「スツぽんぽん体操」を考案し区内の保育園や学校等で実演して子どもたちと交流しています。また私は、モンゴル歌唱



音う風屋での演奏会などの活動



発表者

伊原 修太郎 さん

ができるのですが、独特な発声には、子どもたちからお年寄りまで大きな関心が寄せられます。

「音まち」からのスタートで、音楽によるまちづくりに片寄りがちですが、今後は他のジャンルのワークショップも積極的に開催して行きたいと考えています。最近では柳原稲荷神社の例祭において万灯神輿の神輿絵4面を芸大出身者メンバー4名で制作し、奉納させていただきました。地域の伝統行事にもこうした形で参加することで、新しい風を吹き込み、世代を越えた新しいつながりが生まれることを期待しています。



【講評】

服部 仁 運営委員

若い世代の方たちが保育園や学校を訪れて交流をすると、子どもたちがすぐ元気になるだけでなく、そのお父さん、お母さん、さらにその上の世代まで元気が伝わります。結果的にまちの活性化への原動力となるよう活動を続けてほしいと思います。

文化遺産「鵬外碑」を移設、次代へ継承

森鷗外撰文の「大正記念道碑」は、大正5年に大正新道のはずれ「桜堤」通りに建立されました。しかし近年では、そばに立つ樹木

が成長したり、隣家の新築工事や東日本大震災の影響もあり、地盤が不安定になり補強工事を行うこととなりました。しかし、いざ工事に着手すると問題山積の状況です。樹木の根が大きく張り出し台座の下に入り込んで碑が傾きかけており、さらに周りを囲むブロック塀は基礎が弱り、動かせば崩壊の恐れがあるとのこと。この場所にこのまま設置しては大変なことになると考え、工事は一時中断、新たな移設場所を探すことになり、千住中居町公園という千住堀に面した



移設した大正記念道碑と大正記念道碑パンフ



発表者

相川 謹之助 さん

大正記念道碑のゆかりの場所が見つかり、ここに移築を決定いたしました。

鵬外の生前に建立されたものとしては都内に二つしかない碑のひとつ、大正記念道碑は貴重な文化遺産であり、永く後世に引き継ぐものと思います。一部高等学校、都内の中学校、小学校にパンフレットをお配りしました。やはり千住で活躍した鵬外を千住から発信していく、それには中学生、高校生といった若い世代が文字に親しみ、関心を持っていただくこと、それが鵬外碑を守ることにつながるのではないかと思います。



【講評】

浅香 孝子 運営委員

移設には大変なご苦労をされたことと思いますが、足立区とは関わりの深い碑だけに、後世に残したいとの熱意には大いに共感します。この碑を通じて、大人たちだけでなく子どもたちへも、まちづくりの意識の啓発を図ってほしいと思います。

自主管理歩道を 改修整備



代表者

大内 辰夫 さん

足立区二丁目の民家に沿った私たちの敷地内に自主管理歩道があります。昭和62年にマンション建設後、舗装やガードレールが傷んでおりました。そこで3・11後の大規模修繕の翌年にまちづくりトラストの助成を受けて改修整備を行い、大変きれいに仕上がりました。周辺は狭い道路が多く、地域の方々にも喜んでいただいています。ありがとうございます。

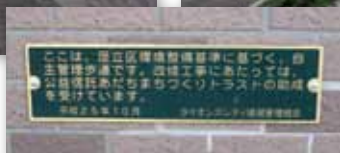


改修整備した
自主管理歩道と
プレート取付け



路面の老朽化に より整備

築19年が経過し、路面の段差及び老朽化により、エントランス前や受水槽前の整備が必要になった。



整備したエントランス前と
プレート取付け

バラエティに 富んだ活動



運営委員長

大熊 喜昌 様

今回の活動報告会はバラエティに富んだ内容で非常に楽しく拝聴させていただきました。総合的なまちづくりに関わるといふ点で、「神明美化グループ」は際立って行政との連携、地域への思い、ソフトなテーマの設定などが明快であり、またソフト面だけでなく具体的な整備に向けての方向づけがなされていること、今回は3年計画だと思いますが整備計画そのものを提出するという形をとるなど、トラスト助成の典型ともいふべきオーソドックスな活動だと思えます。

また「千住いえまちプロジェクト」は若い方が中心ですが、内容が非常に多面的で興味深い活動です。将来的にはNPOをめざすとのことですが、運営には財政的にもかなり厳しい面があると思えます。しかし現実に建物の持ち主など地元との連携を構築することで、「コミュニティの強化・活性化につながる重要なプロジェクトですから工夫をしてぜひ継続してほしいと思います。」「千住ヤッチャイ大学」も非常に面白い活動を展開しています。最近、電機大学や芸大などが地域に

誘致されたことで大学との連携が実現したもので、時代の流れとリンクした形の活動でこれからはますます楽しみです。

「足立区の新しい環境生活を推進する会」は、野草のポケットガイドを発行されていますが、本の制作だけでなく、以前から母体となる団体が樹木の保護をはじめとした緑化という大きなテーマで活動されており、まちづくりに寄与していると思えます。「あだち中学生まちづくりフォーラム」は、今後2年間継続されることですが、中学生たちの活動がどう、まちづくりに結びつくかということもご検討いただきたいと思います。「千住仲町まちづくり協議会」の御飯屋の調査・保存は単独の助成ですが、区にとつての貴重な財産であり、継承の成果が上がること願っています。「千住の鴈外碑保存会」は文学上の遺物であるだけでなく、撰文の中にまちおこしへの千住の思いが書き込まれた碑であることを、もっと区の内外にアピールしていただけたらと思います。

「合唱組曲『五色桜』制作委員会」については、今後女声三部合唱やオーケストラ曲として編曲されるそうですが、地域から海外までより広くその歌声を発信して普及することを期待しています。





「まちづくり活動と まちづくりトラスト」



コーディネーター



運営委員

加藤 仁美 様

パネラー…各報告団体より各1名
コーディネーター…加藤仁美様

加藤 今回は表題のテーマでディスカッションを行います。皆様のより多彩なご意見をお聞かせ願いたいと存じます。

思いを持ち続けることが大切

加藤 まず皆さんが活動のなかで苦勞された点、興味深い点などをお伺いしたいと思います。合唱組曲「五色桜」制作委員会の方、お願いいたします。

合唱組曲「五色桜」制作委員会 実は今回、24年度に続き26年度も助成を頂くことができ、本当に感謝でいっぱいです。24年度の助成により混声合唱組曲が完成いたしました。そして26年度、今度は女声三部合唱に編曲してくださいと大中先生にお願いしています。なぜかといいますと、日本は海外に比べ合唱団への男性の参加は本当に少ないのです。いわゆるお母さん合唱団、これは本当に日本独自の文化で、今度オリピックが開催されたら出していたら海外に紹介したいほどです。そこで足立区のブランドは、やはり日本の文化として発

信する方がいい、集まりにくい男性に声をかけるより、気軽に集まりがばってくれる女性たちにも合唱してもらった方がいい、そうすれば「五色桜」もさらにもっと大きく広がっていくはず。そう思い今女声三部合唱とオーケストラ曲としてつくっていただいているところです。

加藤 東京オリピックの話も出ましたが、足立区のお母さん方にもぜひご参加いただきたいと思います。

神明美化グループ 私は四方を川に囲まれている地域で暮らしていますが、以前からこの地で今の時代をどう生きて行くべきかを漠然と考えていました。そんな折、現区長さん、近藤やよい先生が私に平成18年から東京都で30年かけて水辺づくりをするという基本計画の本を持ってきてくださいました。それ以来、意識が変わりました。そして実感したのは、やはり地域に住む私たちが、まちと一体となって立ち上がり、行動し変えていかなければならないということです。東京都が30年かけて水辺づくりをするなら、逆に足立区がその上をゆくモデル地区になってもいいのではないかと思います。30年は長いですが、あきらめずに住みよいまちづくりへの意欲と思っただけは持ち続け、継続は力なりで今後とも頑張りたいと思います。

加藤 先ほどの「五色桜」は文化をつくり「神明美化グループ」は空間をつくるということで共通していると思います。やはり継続することでの実現につなげていただき

たいと思います。次に「あだち中学生まちづくりフォーラム」の方にお伺いします。

あだち中学生まちづくりフォーラム実行委員会

中学生に「まちの現状と未来について考える」という大きなテーマを投げかけてみたところ、いろいろな意見が発表されました。まとめてみると子どもたちが見ているところは、足立区の自然・公園・川なんですね。先ほど「学力」という話がたくさん出ていました。確かに基礎学力は大事ですが、自然や文化への関心といったものも、日本人のアイデンティティーです。学力一辺倒ではなく、そうした感性も大切に足立のまちのよさというものを中学生とともに発掘していきたいと思います。いよいよ来年は本発表をします。2年後は中学生フォーラムをまた開催しようと思っています。学校側にも多少負担はかかりますが、ぜひ実現させると同時に、今後子どもたちの将来のためにしっかりといい活動をしていければと思います。

空間から始まるまちづくり

加藤 この報告会にも、中学生の参加があればよかったのではというお話が運営委員からも出てまいりましたので、そういう機会もぜひ設けられればいいと思います。では次に「千住いえまちプロジェクト」の方にお願ひいたします。

千住いえまちプロジェクト

プロジェクトの準備段階に、メンバーが集まって最初にしたことがまち歩きです。総勢30人くら

いで2日間に分けて歩き、気になる建物、趣きのある建物をピックアップしてマップを作成しました。しかし2年経ち、当時の物件がすでに20軒近くなくなっています。解体された舞鶴旅館は、宿場町として栄えてきた千住の最後の一軒でした。先ほど東京オリンピックの話もありましたが、もう少し住宅をリノベーションする、または改修



することによって小さな宿泊施設のような建物があれば、魅力的なまちづくりにつながるのではと、ここ最近強く思います。実際、裏路地に入ってみると若い店主さんが盛り上げている路地などもいくつもあり、そこに海外の人たちも訪れるというような風景があっても面白いんじゃないかなと思っています。

加藤 樹木や緑はまちづくりの神髄なので私は私 생각합니다。さらに活動を広げてほしいと願っています。それでは「千住仲町まちづくり協議会」にお願ひいたします。

千住仲町まちづくり協議会 まちづくり活動の課題といえば、世代交代が少なく、高齢化している点でしょうか。昔は自営業の魚屋さんや八百屋さん、豆腐屋さんとか親子二代のお店が多くて、主に息子さん世代が町会を一生懸命盛り立ててくれていたんですが今は親世代が高齢化し、いつ閉店するかわからないような状況が多いですね。それがまち自体の高齢化につながることは肌で感じていることで、打開策を考えているところですが、やはり若い人の参加は欠かせません。町会の行事にしても若手の進出をいろいろな面で後押ししていただければと思います。

津村 昭人 さん



足立区の新しい環境生活を推進する会

足立区の新しい環境生活を推進する会 去年と今年、報告会を聞かせていただきましたが、足立区役所の中には、みどり推進課やまちづくり課など、緑に関する部署が結構あるわけですが、緑のまちづくりに関係する活動が非常に少ないと感じました。まちづくりにやはり緑は欠かせないと思いますし、もう少し緑に関わるトラストの申し込みが増えればいいのではないかと考えています。

若い世代とまちの「コラボ

加藤 これはどのまちづくりでも共通の課題ですね。若い人にぜひ参加してもらいたいということで、「千住ヤッチャイ大学実行委員会」の方にお願ひいたします。

千住ヤッチャイ大学実行委員会 生まれも育ちも千住ですが、住んで実感していたのはアートや音楽などに、あまり触れる機会がないなということです。やはり渋谷、新宿、西側の方にそういった文化が根付いているんですね。そこで「音まち千住の縁」ということで北千住を中心に音楽やアートを基にまちづくりが始まったわけですが、内

容に難解な部分も多く、あまり周囲に伝わらないわけです。やっとここ最近、4年目になり、いろいろな大学や地域で活動する団体などと横の連携が取れるようになりました。メンバーは若い世代が多いので、同世代へのメッセージ発信はスムーズにできません。またフットワークが軽く、「何か面白そう」ということで動くことができる強みを生かして、幅広い世代が共感できるような斬新なまちづくりが進められれば良いと考えています。



加藤 では次に「千住の鴉外碑保存会」の方
にお願いたします。

千住の鴉外碑保存会 現在はグローバル化の時代です。今の中学生たちが将来、海外に出る機会があったとき、自国の文化や出身地の話、この鴉外碑のこともきちんと話せるようであってほしいと私たちは考えています。足立区は、よく環境が悪いとか、イメージが悪いとか言われていますが、そんなことはありません。むしろ、江戸時代から続いている誇るべき歴史や文化がたくさんあります。そうしたことを中学生や高校生に知ってもらい、自分の住んでいるところにはこういう財産があるという自負をもって世の中に出ていってほしいと考えています。

加藤 みなさんの発表にもそれぞれ感じたことですが、ぜひ足立区を愛している方が次の世代にその活動や文化をつなげていただきたいと思います。ディスカッションはこれで終了させていただきます。ここで第二部のまとめを中林先生にお願いいたします。



総括 まちづくり活動 の連携も



運営委員

中林 一樹 様

高いレベルで足立区から発信する合唱組曲。もうひとつは、手づくり感覚で音を楽しみ、親しむ音遊びのようなもの。いずれも人の心をうるおわせることから、まちを健康にする活力を養うものでしょう。中学生のしなやかな感性が描き出すまちの将来への提言も活力の源になります。そして歴史ある神社でのお祭りは、地域をつなぎ人をつなぐ縁を生み出します。

今日、私は少し認識を新たにしました。空間づくりに重きを置いた活動と、人づくりにベストミックスするかが非常に大切であるということです。そしてトラストを通じて、相乗効果が生まれ、ハード、ソフトの空間と人がベストマッチングした素晴らしいまちになるのではないかと期待がふくらみます。今後も一層多くの方に参加いただきたいと思います。



信託管理人

小川 清美 様

まちづくりの最終的な成果は何かと考えると、美しく安全で安心して快適に暮らしている、そんな場所であり空間をつくることです。しかし単に行政が道路をつくり、公共施設を充実させるだけでは実現できません。それは皆さんが活動されているような、高速道路の高架下の有効活用であり、地域に残る無名でも歴史的な価値のある建物を記録して活用することであり、または文化財の保護と価値の発信といった、空間に関わり、空間からまちを動かし活性化していく、生きた空間づくりの視点から生まれるものであると思います。そして空間を使うのはまさに人です。まちづくりは人づくりといわれますが、空間にどのような人が集い、どのような活動をし、どのような暮らしをするかが重要なことだと思います。

皆さま方には本当に熱く語っていただきまして足立区のため、まちづくりのため努力されていることが心から実感できました。今後この制度が皆さまの活動の多少なりとも一助となればよいと願っております。

自主的なまちづくり活動を応援しています

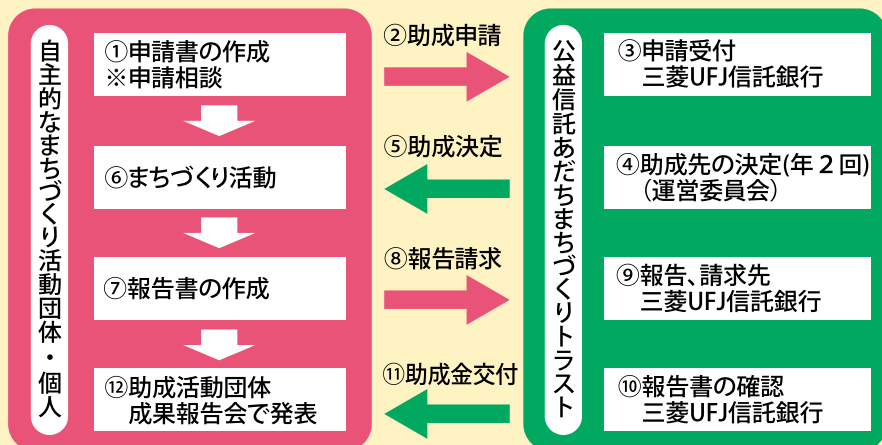
平成26年度助成団体

NO	団体の名称	代表者氏名	事業内容
1	フラワーガーデンいこう	本田 博	身近な未利用地を利用して、花のある良好な憩いのスペースを創出し、地域に開かれたふれあいのコミュニティーづくり活動。
2	神明美化グループ	遠田 明子	自分達の住む神明地区の綾瀬川沿いや高速道路の高架下の遊歩道等の整備を目指す計画づくり活動。
3	千住いえまちプロジェクト	山崎 太育	千住まち並みの調査・記録を通して、千住の魅力を客観的に把握、まち歩きやマップ制作を通して、千住の魅力を共有、その魅力ある建物やまち並みを活用する活動。
4	西新井大師周辺地区まちづくり協議会	田口 行彦	足立区を代表する観光名所にふさわしい街並みづくりと活性化を目指す調査研究、回遊マップやニュース等の発行活動。
5	合唱組曲「五色桜」制作委員会	田口 芳子	平成24年度に作成した混声四部合唱組曲「五色桜」を女声三部、オーケストラ用に編曲し、区のシンボル「五色桜」の充実・普及する。
6	特定非営利活動法人千住文化普及会	櫛原 文夫	千住のお化け煙突を題材に絵本を製作し、郷土の歴史文化に触れ、ふるさと足立に自信と誇りを持たせる活動。
7	「安心・安全まちづくり絆プロジェクト」実行委員会	長塩 英治	区内の組織と連携し、音楽イベント・防災セミナー等を地域で開催し、住民自らの防災への意識向上をはかる活動。
8	ボランティアグループ青い空の会	秋草 好子	高齢者・障がい者のために、毎月ミーティング・おしゃべり会・各種手芸教室・楽しく歌う会・歩こう会等を開催し、孤立予防活動。
9	千住ヤッチャイ大学実行委員会	清水 宏行	月2回ペースでトークイベントやワークショップを各地区で開催し、地域コミュニティ、街の活性化をはかる活動。
10	NPO法人あらかわ学会	小松原 時夫	荒川と扇大橋周辺の親しめるガイドマップを作成し、荒川沿川の環境・歴史・文化の勉強会やまち歩き等を開催して、「荒川」と「流域市民」とのより良い関係づくり活動。

助成申請から助成金交付まで

多くの団体やグループがトラストの助成を受けてまちづくり活動をしています。地域の整備・改善、その他様々な活動を支援するまちづくりトラスト制度。どうぞふるってご活用ください。

※小額助成 30万円まで・一般助成 300万円まで・自主管理整備 300万円まで



申請書類提出先

三菱UFJ信託銀行
リテール受託業務部公益信託グループ
Tel.0210-622-372
〒100-8212 千代田区丸の内1-4-5

申請相談

足立区都市建設部市街地整備室
まちづくり課まちづくり支援担当
Tel.03(3880)5915 (直)
足立区役所 南館4階